

令和5年度鹿児島県大学図書館協議会研修会記録

鹿児島県大学図書館協議会研修委員会

事例紹介 テーマ「学生と協働した図書館づくりの事例」

紹介者：福永 夕紀 氏（鹿児島大学附属図書館桜ヶ丘分館）

紹介者：豊永 未優 氏（図書館サポーター：鹿児島大学法文学部4年）

日時：令和5年12月19日（火）13:05～13:50

会場：Web開催

参加：27名

<発表者> 福永 夕紀 氏（鹿児島大学附属図書館桜ヶ丘分館）

鹿児島大学附属図書館の図書館サポーター「さつリス」について紹介された。コロナ禍で引き継ぎ・活動・交流が困難な状況の中、図書館紹介動画作成時には、(2021年サポーター作成)職員も撮影協力をしたことや小物づくりが得意な職員が小物製作をしたこと等が説明された。(全員で図書館紹介動画を視聴)そして、オープンキャンパス・大学祭でのサポーター活動について、今年度の様子も含め説明された。また、図書館企画の学生選書ツアーやサポーター自主企画である全国大学ビブリオバトル予選会・地区決戦についても紹介された。

<発表者> 豊永 未優 氏（図書館サポーター：鹿児島大学法文学部4年）

図書館紹介動画が完成するまでの流れについて紹介された。動画作成時について、コロナ禍のためオンラインミーティングを行ったこと、作成した絵コンテに沿って図書館職員に動画撮影をしてもらったこと、鹿児島大学の知的財産係にアプリ使用・著作権について確認を取ったりしたこと等が説明された。(オープンキャンパス担当のサポーター4名が中心となり、LINE・動画編集アプリを用いて作業が行われ、完成までの期間は4か月)またオープンキャンパス用に、謎解きゲーム(クロスワード)の問題・ヒント作成を二人一組で行ったこと、2023年度は鹿児島大学謎解きサークル「In Tale」とコラボしたこと等についても紹介された。大学祭への参加については今年度の様子も含め説明された。(本のおみくじ・本の交換会・無償譲渡・撮影スポットの設置・絵本コーナー・読書会等)

<質疑応答>

- ①県内の図書館サポーターの学生交流について考えていたこと
- ②学生協働(ボランティア形式)で学生のテンションを維持するために努力していたこと
- ③④学生協働(ボランティア形式)をしていて良かった瞬間とその共有方法

福永 夕紀 氏（鹿児島大学附属図書館桜ヶ丘分館）

【回答①】サポーター同士の交流がメインとなるような会を考えていた(意見交換等)

【回答②】サポーター自身に意思決定してもらおうようにしていたが、難しいところがあった

豊永 未優 氏（図書館サポーター：鹿児島大学法文学部4年）

【回答③】企画の流れを知ることができた。チラシ作成では、見てもらいやすさを考えることで、目的を持って行動するという個人的スキルが上がった。また大学祭等のイベント開催時の、企画参加者からの好意的な意見により、皆が本に触れてくれていることが分かる瞬間。

【回答④】大学祭終了後の反省会や隔週でミーティングを実施。コロナ禍が明け、サポーター同士の交流が可能になった事で仲が深まり、普段の会話の中でも情報共有ができています。